



2019年度2回のゼミ合宿の中で、留学生5名とともに岐阜、長野両県にまたがる源義仲（木曾義仲）の史跡を訪ね、義仲をたたえるお祭りに参加しました。

中山道馬籠宿

中山道の中で岐阜県の中津川宿から長野県の塩尻宿までは木曾路（木曾11宿）といわれ、木曾義仲の旗揚げ祭り（Kiso Yoshinaka Flag Raising Festival）が各地で行われています。代表的なものは長野県木曾町日義の無形文化財「らっぽしよ」（Nagano Kiso Town Intangible Cultural Heritage 'Rapposho'）と岐阜県中津川市坂下と長野県南木曾町田立の無形民俗文化財「花馬祭り」（Gifu Prefecture and Nagano Prefecture Intangible Folk Cultural Heritage 'Hanauma' Festival）です。ゼミ合宿では、中津川宿から馬籠宿を経て、坂下神社を訪ねました。木曾路の入口中津川宿は、JR中津川駅の近くにあり、街道にある「矢野書店」では詳しい観光情報を得ることができます。また腹ごしらえは寿司屋「すし天」のマグロのにぎりがオススメです。中津川宿から国道19号を北に向かうと、馬籠宿に着きます。1215年、木曾義仲の妹（異母



中山道馬籠宿にて

妹）菊女は義仲の従兄である源頼朝から馬籠の地を賜りました。後に馬籠は妻籠とともに江戸時代に宿場町として発展を遂げ、明治以降では島崎藤村の生誕地として有名になりました（Wikipedia参照）。馬籠宿の石畳は美しく、建物の軒先にはツバメの巣がたくさんあります。馬籠宿の中ほどにある永昌寺に島崎藤村の墓があり、すぐ裏の法輪寺跡に菊姫の墓地（五輪塔）があります。丸い石を3つ、4つ、5つと積んだお墓の形は、鎌倉市の鶴岡八幡宮近くの源氏山の洞窟にある頼朝の妻北条政子のお墓の形によく似ています。

坂下神社（八幡宮）

国道19号から落合宿を経て、木曾川沿いに行くと、馬籠宿側から木曾川を挟んで、対岸に坂下神社があります。源頼朝、源義仲など代々の源氏は武士を守る「八幡信仰」を持ち、侍の武神として全国に八幡神社が立てられ、後に足利氏、織田氏、豊臣氏、徳川氏に受け継がれました。日本の侍文化は八幡神信仰によって形成されてきたといわれています（宝島社『日本の神社100選』参照）。私たちゼミ一行は、JR坂下駅近くの「Cafeロッコ」（Rocco）で、おいしいコーヒーやピザ、ケーキをいただいた後、坂下高校の近くにある坂下神社周辺を散策しました。1180年、頼朝は伊豆、義仲は木曾で、平家を討つために挙兵し、木曾義仲は平教盛を破って北陸を平定し、後に京都に入って平氏は都落ちをしました。義仲は出征時に木曾地方の八幡信仰の中心地であった坂下神社に戦勝祈願に向かいました。しかし当日は、木曾川が氾濫して坂下神社側へ渡ることができなかったので、義仲は木曾川の対岸から神社に向けて「鎬矢（かぶらや）」に「幣（ぬさ：お供えの布）」をつけて弓を放ち、対岸の坂下神社氏子の原義明が義仲の矢を馬の鞍にさし、神社に代参したといわれています（「坂下の花馬」中津川市教育委員会等参照）。坂下神社の近くには義仲の放った矢が落ちたといわれる「矢淵（やぶち）」という地名が残っています。平氏を追討する祈願の

ために、木曾義仲が放った一本の矢が、日本の侍文化の起源であるという所以です。

花馬祭り（花馬行列）

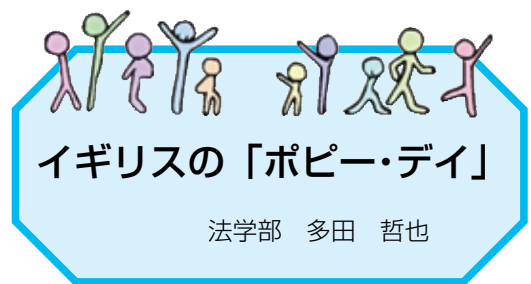
1184年木曾義仲が平氏を破り、征夷大将軍の称を賜った知らせに、坂下の人々は喜び勇んで、幣をつけた矢を木曾馬の背につけ、坂下神社に戦勝報告をしたのが、花馬祭りの起源であるといわれています（道の駅「きりら坂下」案内板参照）。祭りでは、鞍に矢をさした3頭の木曾馬を花馬として3つの地区を行列し、JR坂下駅付近で合流してから坂下神社に向かって練り歩きます。木曾義仲の放った矢は「花串」と呼ばれる8色の矢となり、花馬に飾られた365本の花串は五穀豊穰を願うものとなったといわれています。10月の第1日曜日、第2日曜日に、南木曾町田立と中津川市坂下でそれぞれ花馬祭り（本祭）が開催されます。当日は消防団の人たちに先導された花馬に飾られた義仲の矢が、金、銀、赤、紫などの花串となり、とても華やかです（表紙の写真）。3頭の花馬、氏子、子供、見物の人々が坂下神社に到着するといよいよ花馬祭りのフィナーレ「花奪り（はなどり）」を迎えます。木曾馬に飾られた義仲の矢（花串）を氏子、見物客が一斉に奪い合うのです。見物客を囲っていたロープがさっと外されると、私たちもその渦の中に巻き込まれました。100～200人の人々が一斉に矢を奪い合い、中には人の背中に乗って、1人で花串20～30本を取ってしまう「暴れん坊将軍」のような人もいます。



花串を奪い合う「花奪り」

私たちは2本の花串をとることができました。2本の花串を横に広げると、花串は8色の紙で飾られ、鎗矢の形をしていました。

義仲の放った一本の矢に始まる侍文化は、20世紀から映像作品の中で海外に紹介されました。日本映画『七人の侍』（1954年）、テレビドラマ『隠密剣士』（62年）、アメリカテレビドラマ『将軍 Shogun』（80年）、映画『THE LAST SAMURAI』（03）などの作品がアメリカ、フランス、イタリア、オーストラリア、中国などで大ヒットして、アメリカ・ヨーロッパ圏では「SAMURAI」（侍）、中国・アジア圏では「WUSHI」（武士）という言葉でブームを引き起こしました。ゼミ合宿に参加した留学生の世代にとっては、アニメ作品の『忍者ハットリくん』（64年）、『ドラゴンボール』（84年）、『忍たま乱太郎』（94年）、『NARUTO』（99年）などの忍者ものアニメがよく知られ、アニメ作品によって生まれた「NINJA」ブームが、海外での「SAMURAI」ブームを後押ししたといわれています。



もう十年以上も前の事ですが、大学から研究休暇を取って、イギリスのオックスフォードで一年間、一軒家を借りて家族と過ごしていました。そんなある日、家族を連れてロンドンに日帰りで観光に行った時に、定番の観光スポットとして有名なウェストミンスター寺院の前で、たくさんの赤いポピー（芥子、ケシ）の造花が飾られているのを目にして、いったい何だろうと思いました。その日一日はロンドンの街中を歩いている人たちの間でも、ポピーの花を身につけている人たちをよく見かけて、これは何か特別な意味があるんだろうけれども何なんだろう